

平成29年度全国学力・学習状況調査

貝塚市の結果

貝塚市教育委員会

もくじ

I. 調査の概要	P. 1
II. 結果の概要について	P. 1
(1) 領域・問題別の正答の状況と課題について（小学校）	P. 2
・小学校 国語A・B、算数A・B	
(2) 領域・問題別の正答の状況と課題について（中学校）	P. 4
・中学校 国語A・B、数学A・B	
III. 基本的な生活習慣等について（児童生徒質問紙調査より）	P. 6
V. 今後に向けて	P. 16

平成29年度 全国学力・学習状況調査 貝塚市の結果

4月18日に文部科学省により全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に「平成29年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。

貝塚市教育委員会は、この分析結果を保護者や地域の方々と共有し、今後の本市の教育施策や学校の取組みに活かすことにより、本市の教育を一層充実させて参ります。

なお、この学力調査により、測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を表すものです。

I 調査の概要について

(1) 調査の目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析した上で、本市の教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○以上のような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年 小学校及び支援学校小学部第6学年、中学校及び支援学校中学部第3学年

(3) 調査内容

①教科に関する調査（国語・算数・数学）

・主として「知識」に関する問題（国語A、算数A、数学A）

・主として「活用」に関する問題（国語B、算数B、数学B）

②質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

(4) 実施日 平成29年4月18日（火）

II 結果の概要について

小学校

(%)

	区分	貝塚市	大阪府	全国
国語	A	71	72	74.8
	B	55	54	57.5
算数	A	79	78	78.6
	B	43	45	45.6

中学校

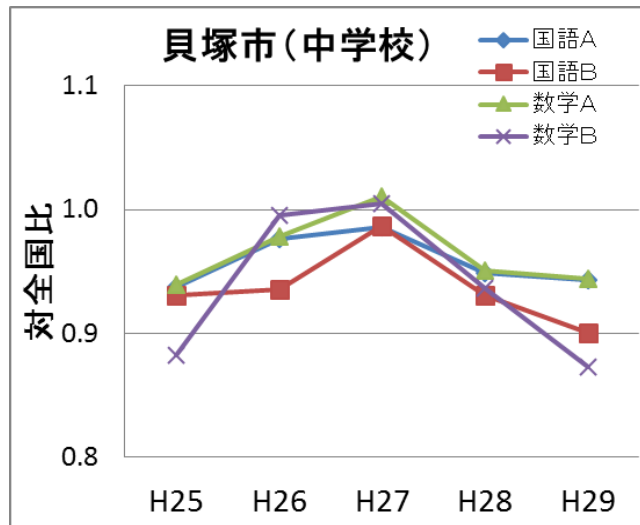
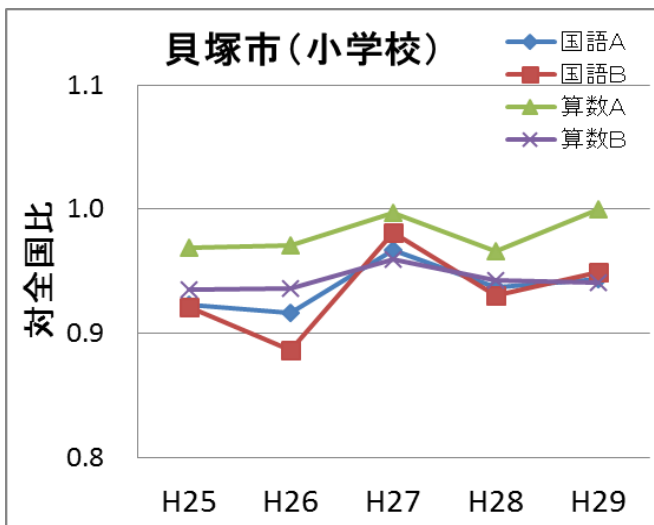
(%)

	区分	貝塚市	大阪府	全国
国語	A	73	75	77.4
	B	65	69	72.2
数学	A	61	64	64.6
	B	42	46	48.1

※「貝塚市」、「大阪府」、「全国」としているのは、貝塚市内公立学校・大阪府内公立学校・全国の公立学校の平均正答率（%）を表しています。

教科・区分別正答率比較/対全国比経年比較

貝塚市の平均正答率を全国の平均正答率で割った値を経年比較で示しました。全国が「1」です。



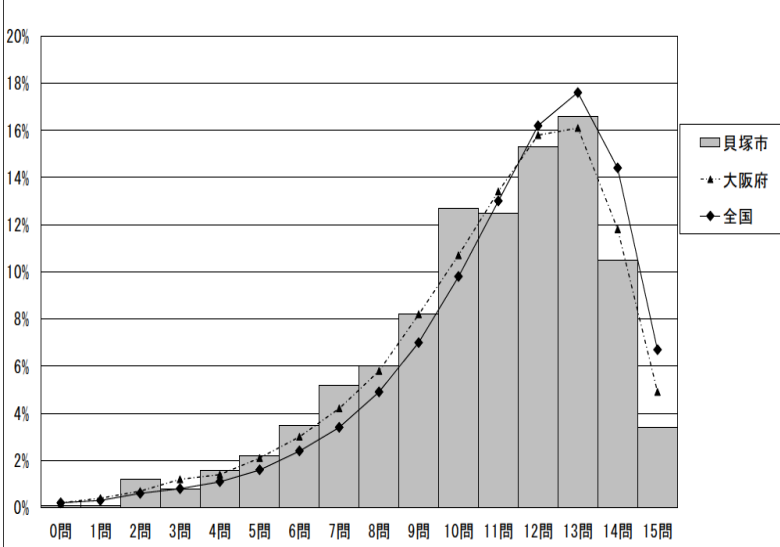
算数Aにおいては全国平均と同じ結果を出している。また、昨年度と比較すると、国語B、算数Aともに伸びが見られる。

すべての教科、区分において、全国平均に及ばないが、国語A、数学Aにおいては経年で比較するとほぼ横ばいに対し、国語B、数学BはH26年度以降下降している。特に数学Bが課題である。

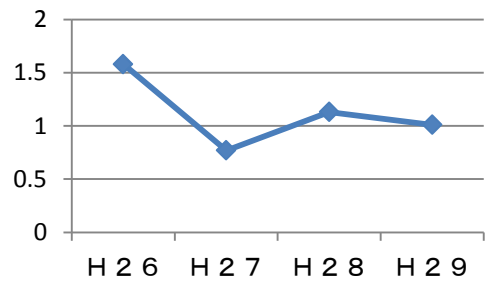
(1) 領域・問題別の正答の状況と課題について (小学校)

国語A

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



国語Aの無解答率の推移

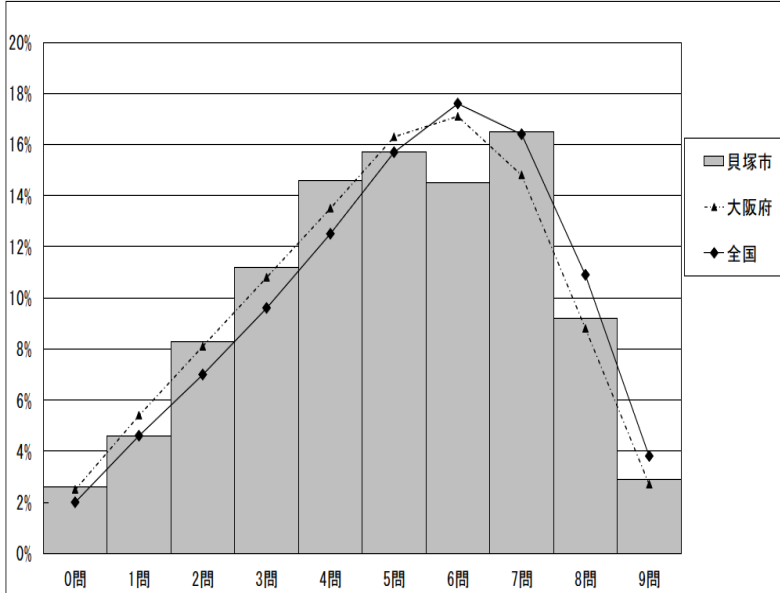


貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を経年比較で示しました。全国が「1」です。

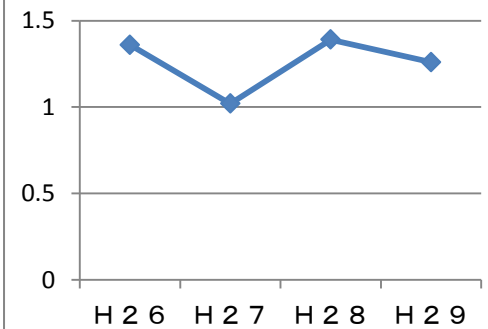
○国語Aでは、大阪府平均正答率(以降、府平均と記します)を1ポイント、全国平均正答率(以降、国平均と記します)を3.8ポイント下回りました。今回出題された中で、同音異義語を書く(答える)こと、手紙の書き方などの問いに課題が見られました。学んだことが実生活に結びついていない、生活に返っていないことが課題であるように見受けられます。
○無解答率は、国の無解答率とほぼ同じでした。

国語B

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



国語Bの無解答率の推移

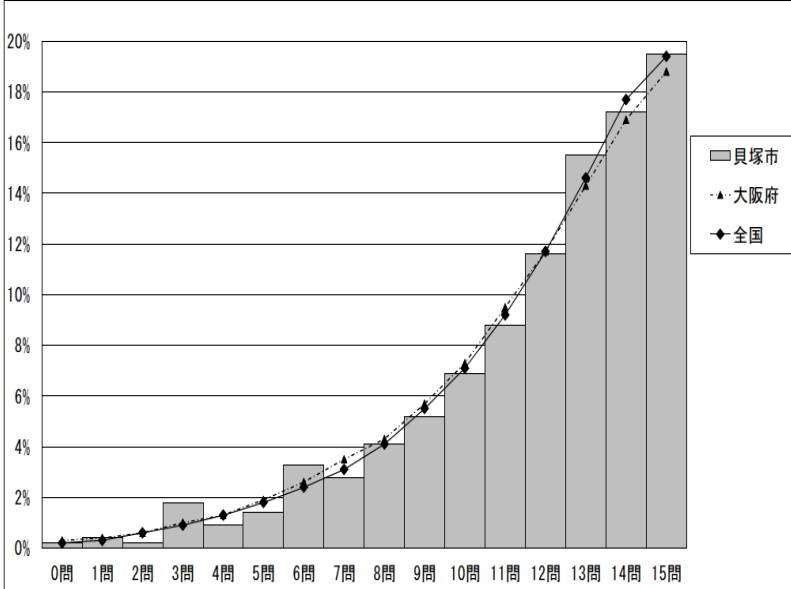


貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を経年比較で示しました。全国が「1」です。

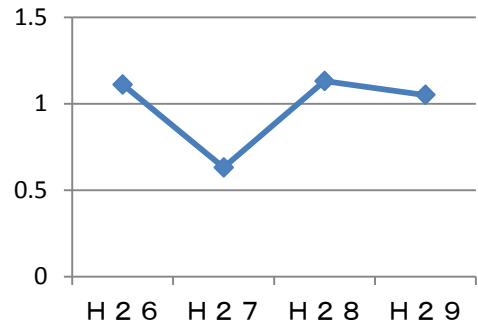
○国語Bでは、府平均を1ポイント上回りましたが、国平均に2.5ポイント及びませんでした。目的に応じて、必要なことを整理して書くことや、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を考えることに課題が見受けられます。
○無解答率は、昨年度よりは低くなりました。無解答率が高かった問題は、物語を読み、理由を明確に具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題でした。

算数A

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



算数Aの無解答率の推移

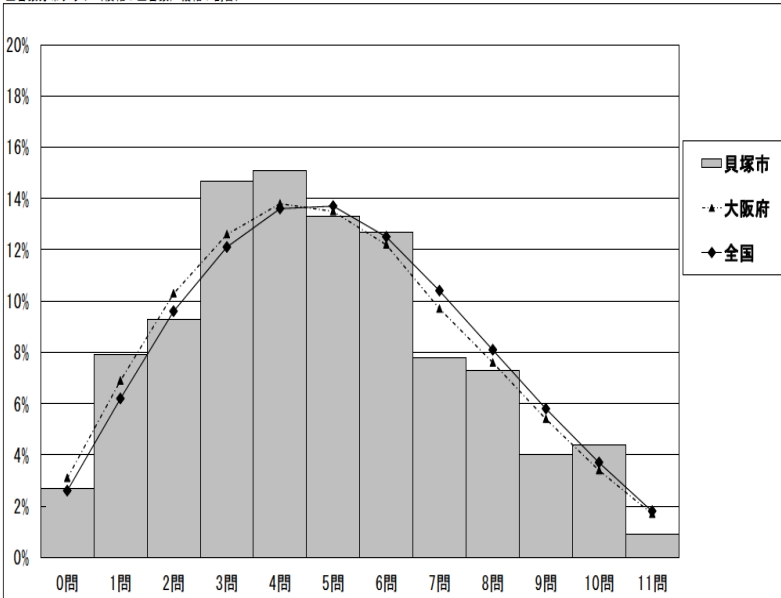


貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を経年比較で示しました。全国が「1」です。

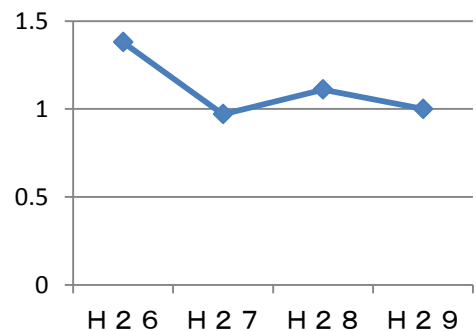
- 算数Aでは、府平均を1ポイント、国平均を0.4ポイント上回りました。1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解することや、資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることに課題が見られました。また、任意単位による測定についての問題や高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の問題において正答率が低く、課題です。
- 無解答率は、国とほぼ同じで、昨年度より改善しています。

算数B

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



算数Bの無解答率の推移



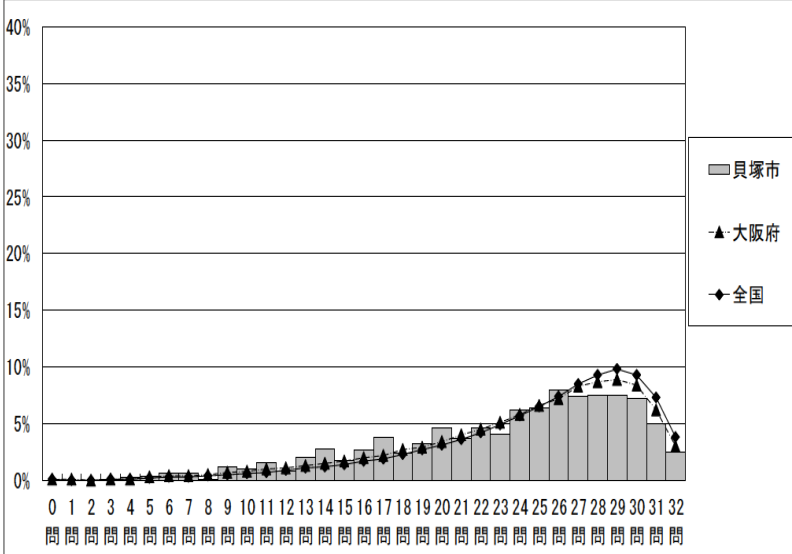
貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を経年比較で示しました。全国が「1」です。

- 算数Bでは、府平均を2ポイント、国平均を2.6ポイント下回りました。今回出題された中で記述式の問題に課題が見受けられます。特に、答えの求め方を記述で答える問いや、答えた判断の理由を記述で答える問題の正答率が低くなっています。また、記述式以外の問題で、示された条件や方法を問題場面に適用させたり、目的に適したグラフを選んだりする問題も課題です。
- 無解答率は、国平均とほぼ同じでした。

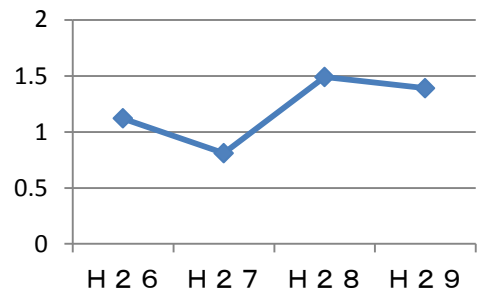
(2) 領域・問題別の正答の状況と課題について (中学校)

国語A

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



国語Aの無解答率の推移

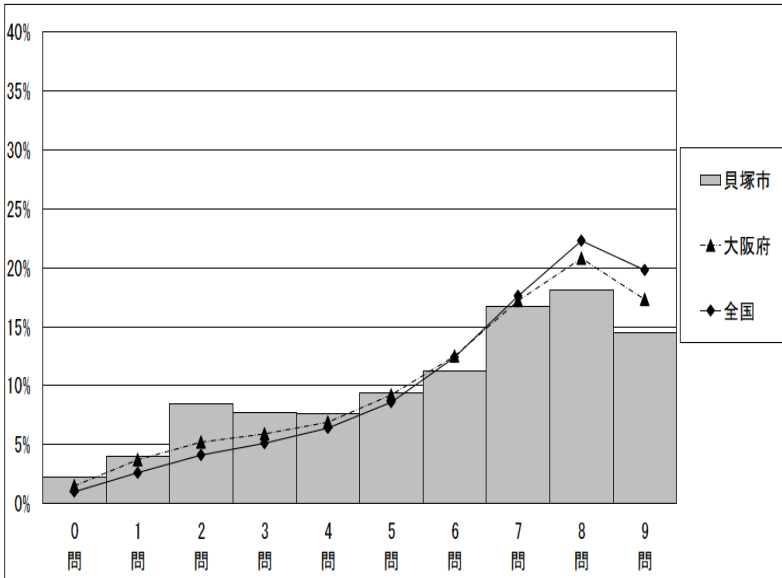


貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を経年比較で示しました。全国が「1」です。

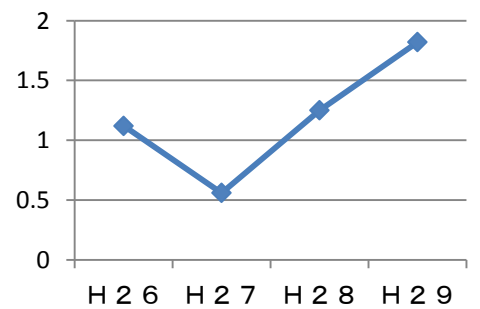
○国語Aでは、府平均を1ポイント、国平均を4.4ポイント下回りました。今回出題された中で、文脈に即して読むことはよくできていますが文脈に即して漢字を正しく書くことには課題が見られます。また、事象や行為などを表す多様な語句について理解することにも課題が見受けられます。
○無解答率は昨年度よりは改善しました。

国語B

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



国語Bの無解答率の推移

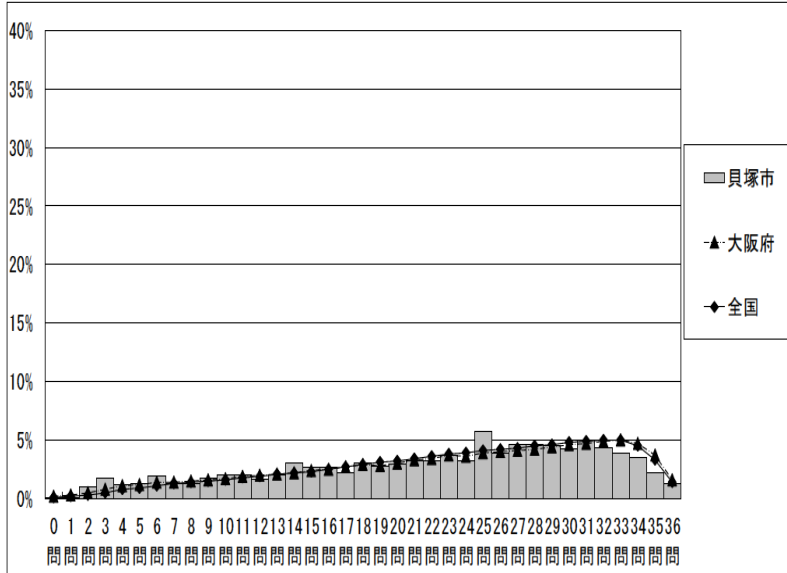


貝塚市の無解答率を全国の無解答率で割った値を経年比較で示しました。全国が「1」です。

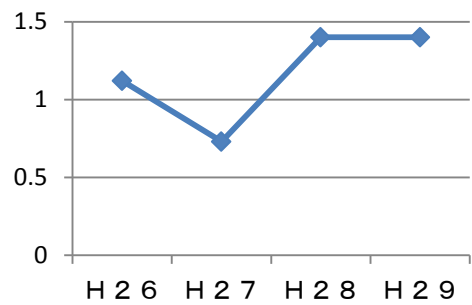
○国語Bでは、府平均を4ポイント、国平均を7.2ポイント下回りました。今回も記述式の問題に苦戦しています。特に、課題を決め、それに応じた情報の収集や本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が昨年度と同様に見受けられます。
○無解答率は、昨年度よりも高くなり、経年比較では最も高くなりました。国平均との差は約3ポイントでした。

数学A

正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



数学Aの無解答率の推移

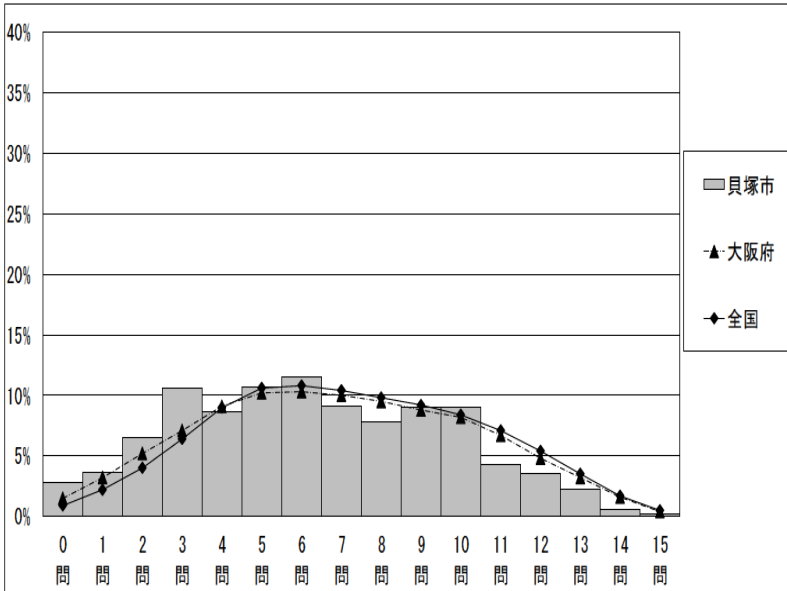


貝塚市の無解答率を全国は無解答率で割った値を経年比較で示しました。全国が「1」です。

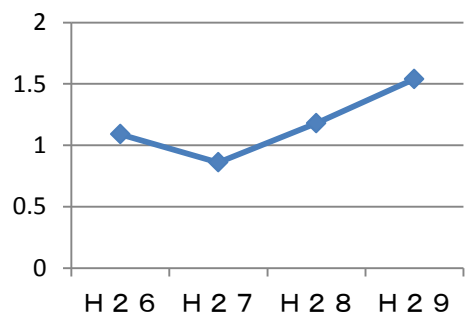
○数学Aでは、府平均を3ポイント、国平均を3.6ポイント下回りました。今回出題された中で、数学で用いられる用語の理解に課題が見受けられます。「範囲」「比例定数」「相対度数」等の言葉の意味を理解していないと解答できない問題に課題が見られました。
○無解答率は昨年同様、経年比較の中で最も高く、国との差は約2.5ポイントでした。

数学B

正答数分布グラフ (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



数学Bの無解答率の推移



貝塚市の無解答率を全国は無解答率で割った値を経年比較で示しました。全国が「1」です。

○数学Bでは、府平均を4ポイント、国平均を6.1ポイント下回りました。今回出題された中で、記述式の問題で、数学的な表現を用いて理由や方法を説明することに課題が見られます。
○無解答率は、経年比較の中で最も高く、国との差は約6ポイントでした。

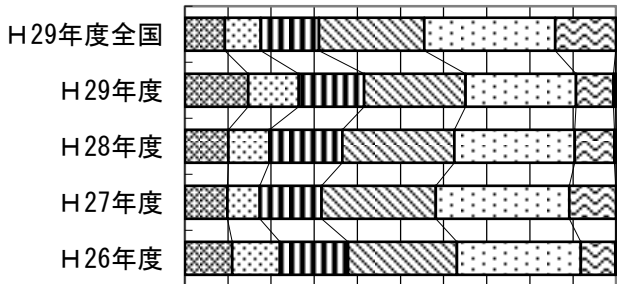
Ⅲ 基本的な生活習慣等について（児童生徒質問紙調査より）

児童生徒質問紙調査の経年比較と今年度の児童生徒と学力の相関関係について分析しました。

1-（1）普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム含む）をしますか。

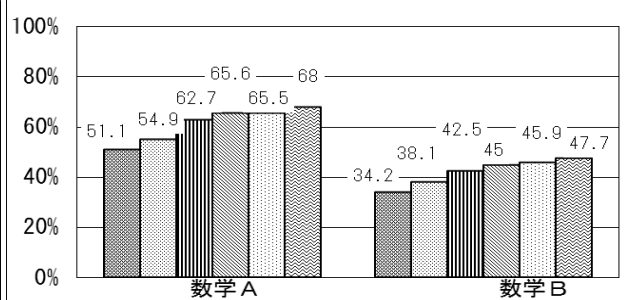
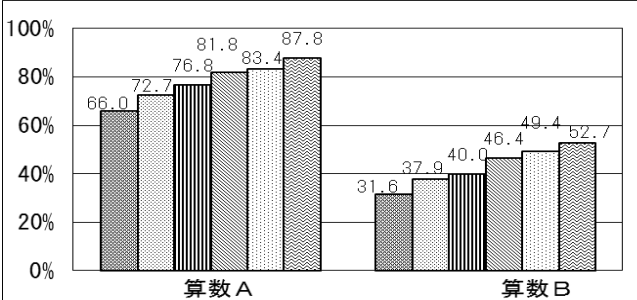
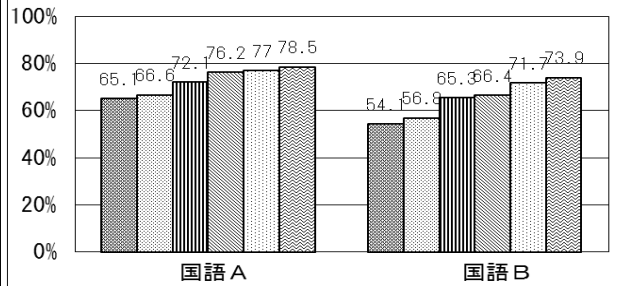
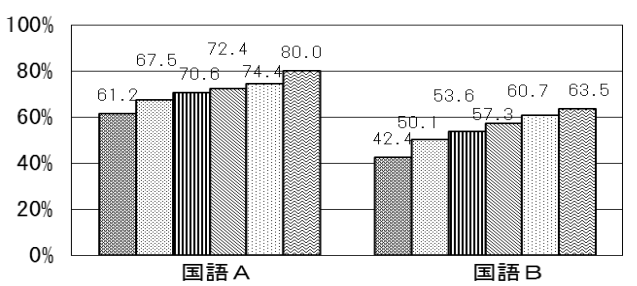
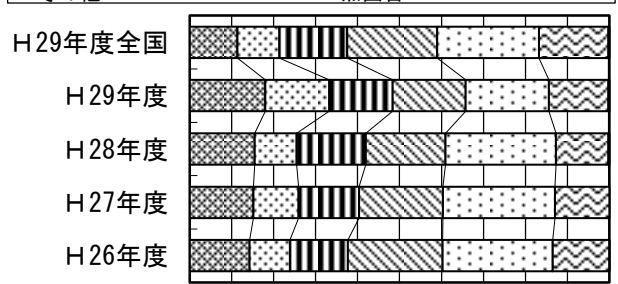
小学校

- 1. 4時間以上
- 2. 3時間以上、4時間未満
- 3. 2時間以上、3時間未満
- 4. 1時間以上、2時間未満
- 5. 1時間未満
- 6. 全くしない
- その他
- 無回答



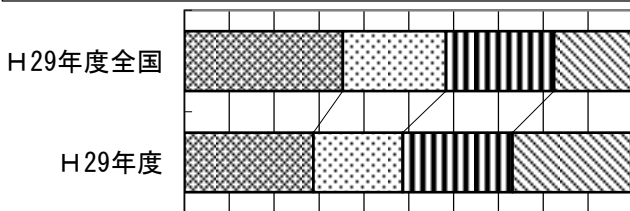
中学校

- 1. 4時間以上
- 2. 3時間以上、4時間未満
- 3. 2時間以上、3時間未満
- 4. 1時間以上、2時間未満
- 5. 1時間未満
- 6. 全くしない
- その他
- 無回答

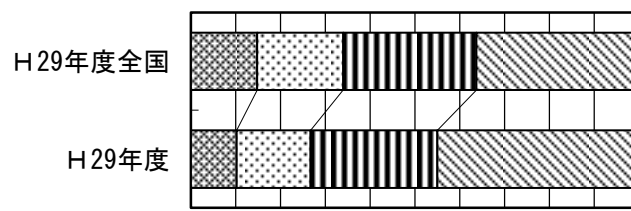


1-（2）テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか。

- 1. している
- 2. どちらかといえばしている
- 3. あまりしていない
- 4. 全くしていない
- その他
- 無回答



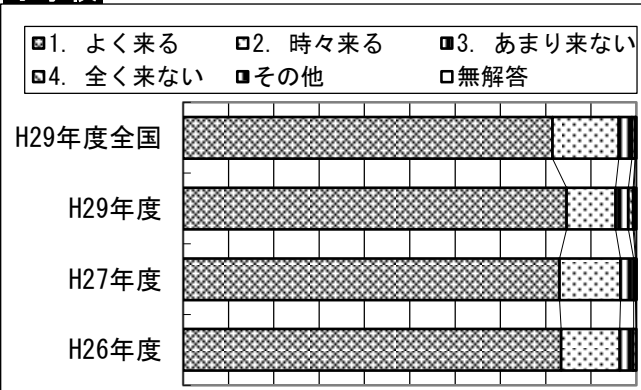
- 1. している
- 2. どちらかといえばしている
- 3. あまりしていない
- 4. 全くしていない
- その他
- 無回答



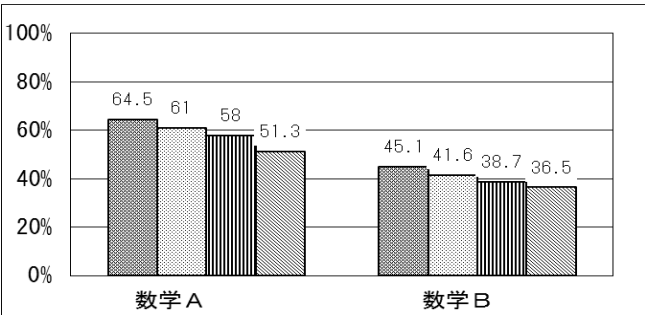
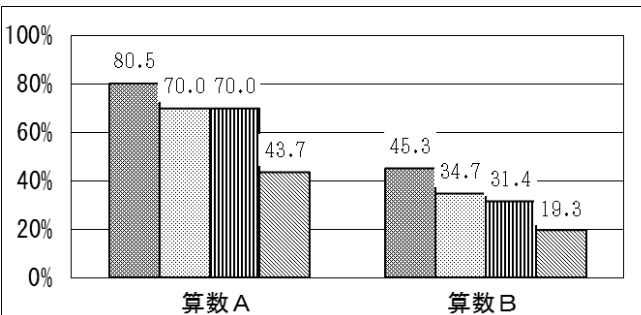
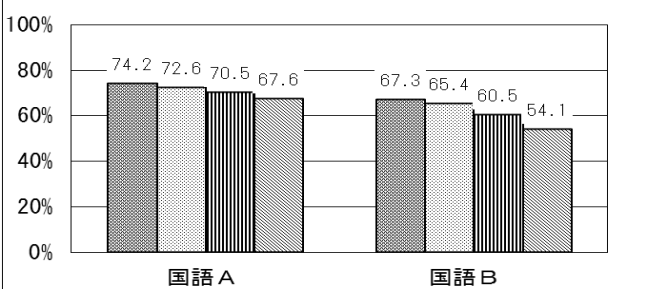
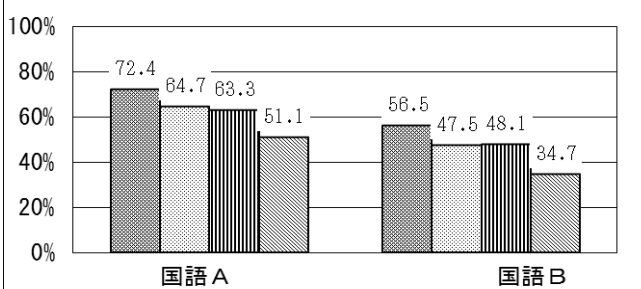
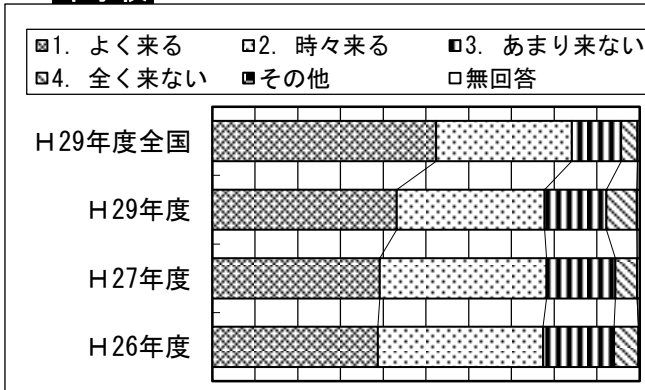
1-（1）の質問項目のグラフは、ゲームをした時間別に回答した児童生徒の割合を経年比較したものです。小・中ともに、毎年約9割の子どもたちが、何らかのゲームをしていることがわかります。全国に比べると長時間ゲームをしている児童生徒の割合が高くなっています。そして、その下の相関関係のグラフでは、ゲームをしている時間が少ない児童生徒の平均正答率は、時間が多い児童生徒に比べて正答率が高くなっています。ここで、1-（2）の「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか」という質問項目の回答を見ると「している、どちらかといえばしている」という肯定的な回答は小学校では半数に満たず、中学校では3割もありません。これを機会に、ルールを決める話し合いをされてはどうでしょうか。

2- (1) 家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。

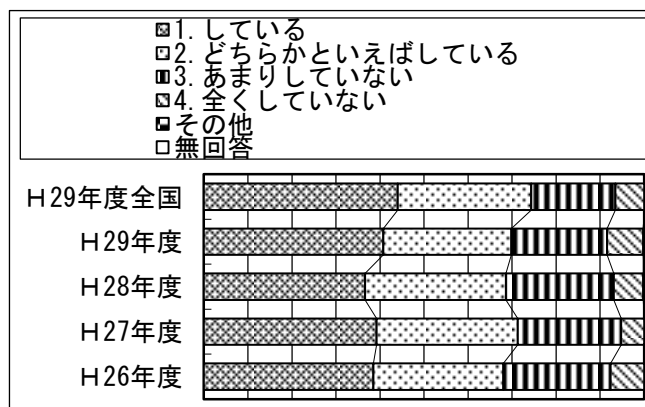
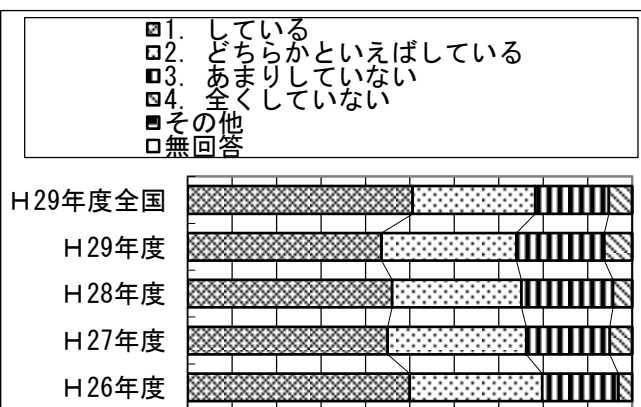
小学校



中学校



2- (2) 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。

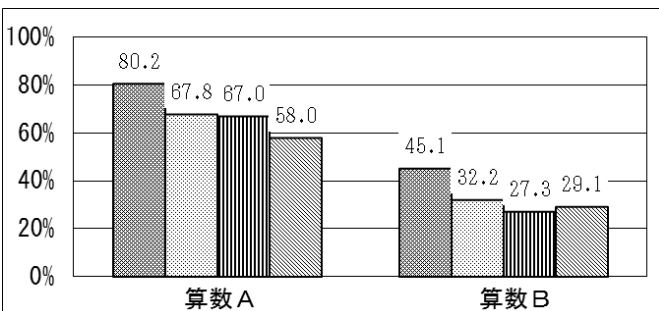
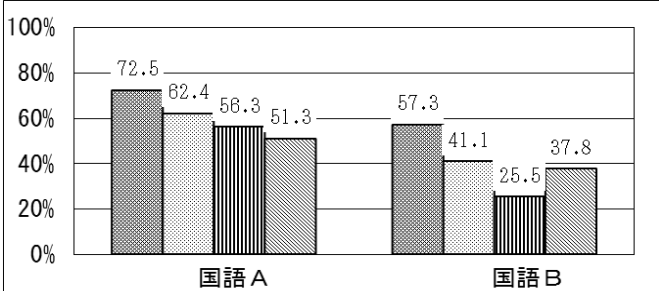
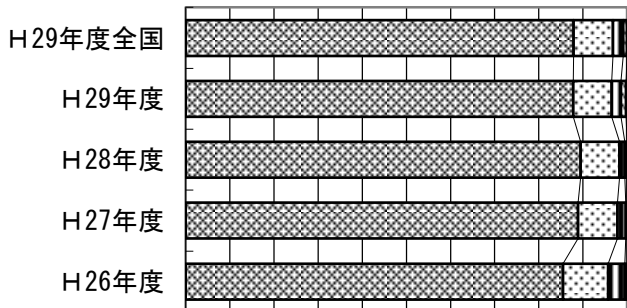


2- (1)の質問項目のグラフは、「家の人（兄弟姉妹を除く）が学校行事に来ますか」という問いについては、小学校では、毎年90%以上の児童が、「家の人（兄弟姉妹を除く）が学校行事に来ます」と回答していることがわかります。中学校でも90%近くの生徒が「家の人（兄弟姉妹を除く）が学校行事に来ます」と回答しています。その下の相関関係のグラフでは、「よく来る」と回答している児童生徒の平均正答率が高くなっています。子どもたちの学校に興味を持ってくださっていることが、子どもたちの学力・学習状況により影響を与えていることがわかります。2- (2)のグラフでは、「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」という質問についての、「話をしている」という肯定的な回答が小・中学校ともに全国より下回っています。市内の各学校も、保護者の方々に学校へ来ていただき、ご参加いただけるように様々な工夫を凝らした行事を企画しています。また、学校行事をご参観の後、ご家庭のほうで子どもたちとお話していただくと、子どもたちのコミュニケーション力も高まります。

3- (1) 家で、学校の宿題をしていますか。

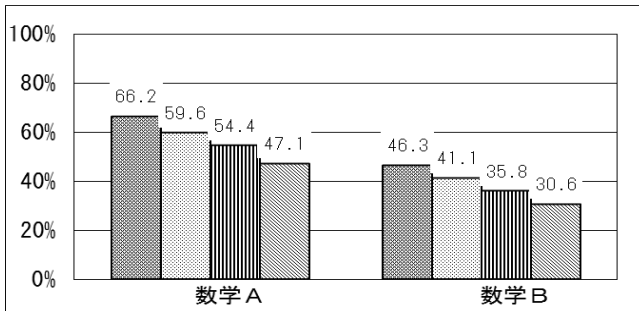
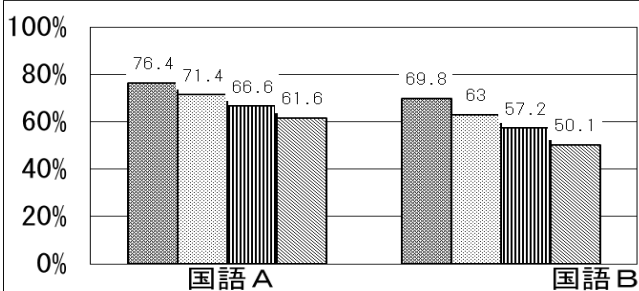
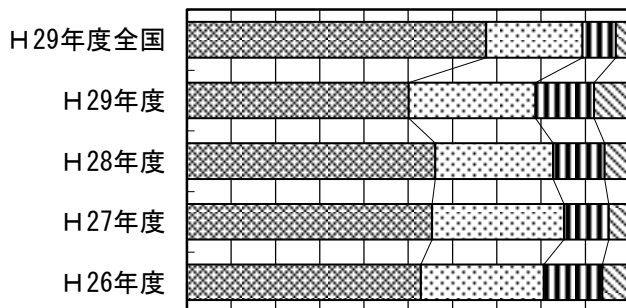
小学校

- 1. している
- 2. どちらかといえばしている
- 3. あまりしていない
- 4. 全くしていない
- その他
- 無解答



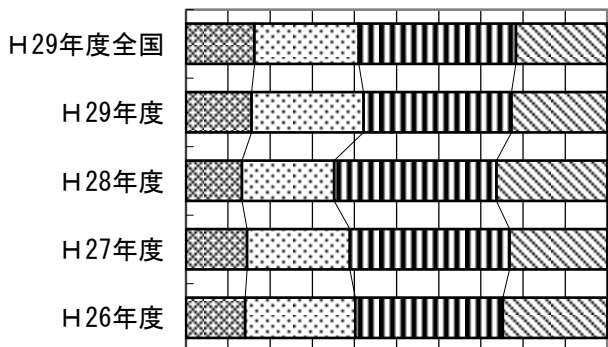
中学校

- 1. している
- 2. どちらかといえばしている
- 3. あまりしていない
- 4. 全くしない
- その他
- 無解答

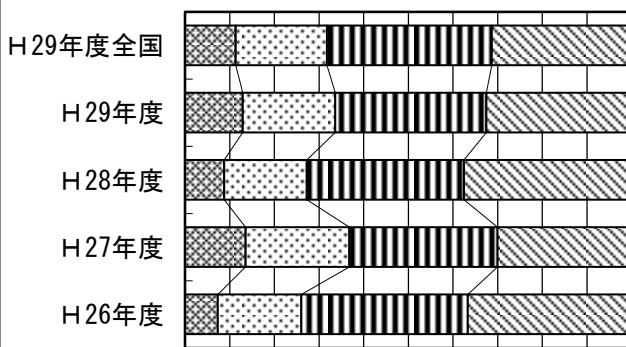


3- (2) 家で、学校の授業の予習をしていますか。

- 1. している
- 2. どちらかといえばしている
- 3. あまりしていない
- 4. 全くしていない
- その他
- 無解答



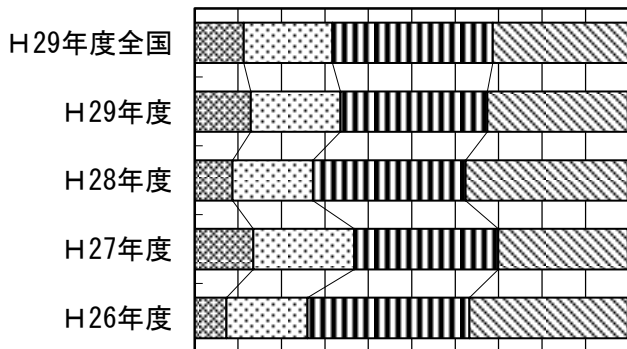
- 1. している
- 2. どちらかといえばしている
- 3. あまりしていない
- 4. 全くしていない
- その他
- 無解答



3- (3) 家で、学校の授業の復習をしていますか。

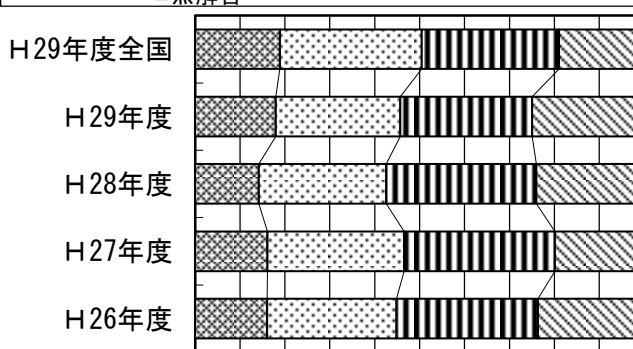
小学校

- 1. している
- 2. どちらかといえばしている
- 3. あまりしていない
- 4. 全くしていない
- その他
- 無解答



中学校

- 1. している
- 2. どちらかといえばしている
- 3. あまりしていない
- 4. 全くしていない
- その他
- 無解答



3- (1)のグラフは、「家で、学校の宿題をしていますか」という問いに回答した児童生徒の経年比較をあらわしたものです。小学校では、毎年95%以上の児童が、肯定的に回答していることがわかります。中学校でも80%近くの生徒が肯定的に回答しています。そして、相関関係のグラフを見ると、肯定的な回答をした子どもたちの方が平均正答率は高くなっています。

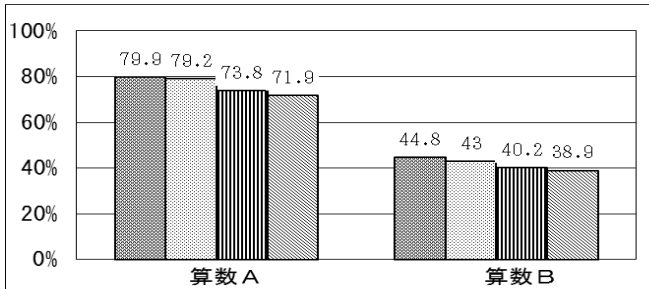
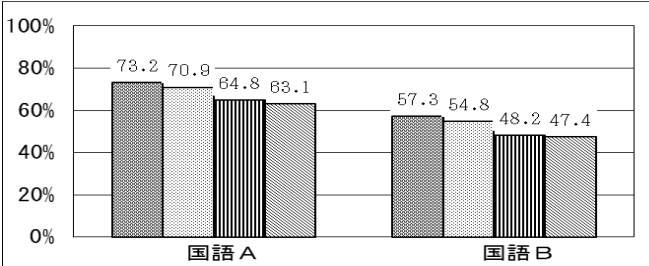
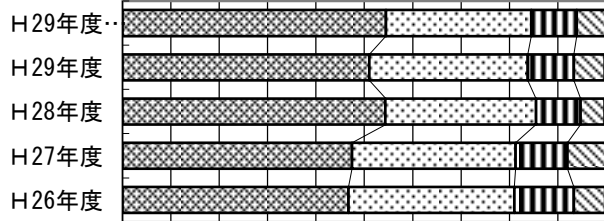
これは、決して家庭学習をおろそかにしているということではありません。中学校では以前より、小学校でも近年、「自主学習ノート」といわれているノートを実践しているところが増えています。これは与えられた宿題ではなく、自主的に予習、復習ひいては、調べ学習等、子どもたちの主体的な学習ができるような取組みになっており、それを推奨しているのです。それが、3- (2)、(3)のグラフの結果となります。小学校では「予習」「復習」ともに、中学校では「予習」に関して、全国の肯定的な回答の率を上回っています。これは、子どもたちが「自主学習ノート」を活用し、宿題としてでなく、家庭学習をしていることと考えられます。

そこで、今回の結果より、教育委員会として、「自主学習ノート」を推奨していくことは継続しつつ、どのような学習を「自主学習ノート」にすればいいのか、という学習内容や方法について、具体的に子どもたちに示しながら、意識づけして主体的な学習へとつなげていくことをすすめていきたいと思えます。ご家庭でも子どもたちに、「何を」「どのように」自主学習ノートにしているのか、様子を見ていただき、お声かけをお願いいたします。

4- (1) テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）

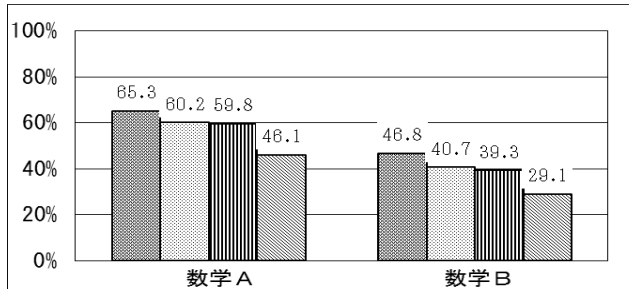
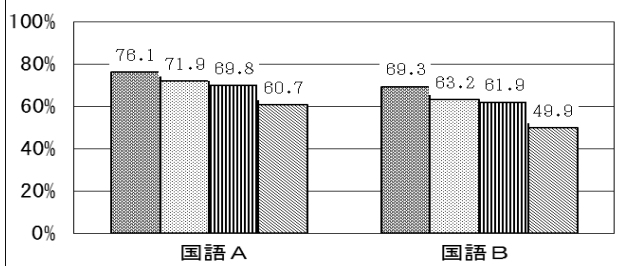
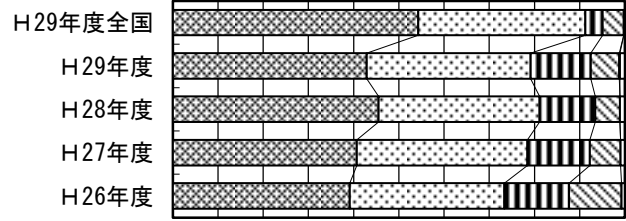
小学校

- 1. よく見る
- 2. 時々見る
- 3. あまり見ない
- 4. ほとんど、又は全く見ない
- その他
- 無回答



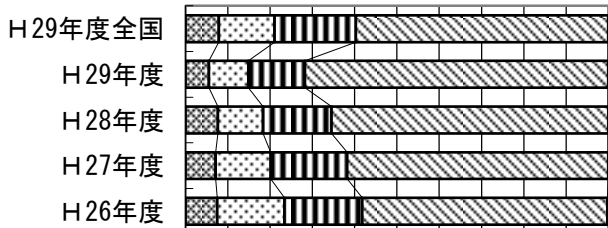
中学校

- 1. よく見る
- 2. 時々見る
- 3. あまり見ない
- 4. ほとんど、または全く見ない
- その他
- 無回答

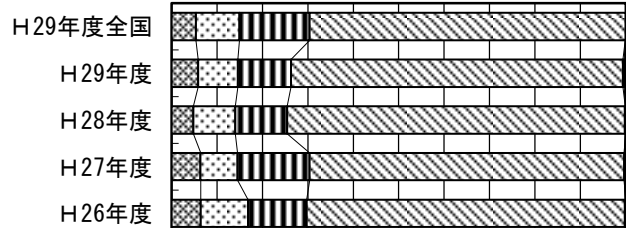


4- (2) 新聞を読んでいますか。

- 1. ほぼ毎日読んでいる
- 2. 週に1~3回読んでいる
- 3. 月に1~3回読んでいる
- 4. ほとんど、または全く読まない
- その他
- 無解答



- 1. ほぼ毎日読んでいる
- 2. 週に1~3回読んでいる
- 3. 月に1~3回読んでいる
- 4. ほとんど、または全く読まない
- その他
- 無解答

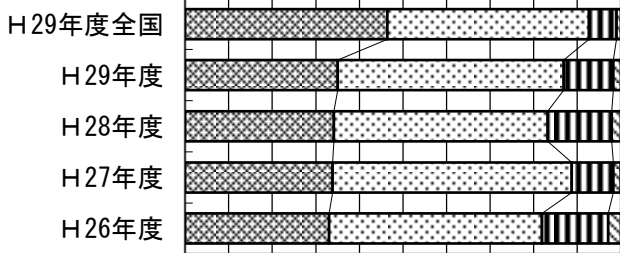


この質問項目のグラフは、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)」という問いに回答した児童生徒の経年比較をあらわしたものです。小学校では、80%以上の児童が、中学校でも80%近くの生徒が肯定的な回答しています。そして、その下の相関関係のグラフを見ますと肯定的な回答をした子どもたちの正答率が高くなって、顕著に関係が出ています。P6にも記しましたが、携帯電話やスマートフォンの普及により、ネットニュースから情報を得ているという子どもたちが少なくありません。社会や地域に起こっている出来事に関心をもつことが、少なからず子どもたちの学力・学習状況に影響を与えていると考えられます。しかし、4- (2)のグラフから、貝塚市の子どもたちの「新聞を読んでいますか」という問いに関する肯定的な回答は全国平均を12ポイントも下回っています。資料や内容を読み取る力をつけるには「新聞を読む」ことが有効であると考えられます。手軽に情報を得られるネットニュースからだけでなく、落ち着いてじっくり新聞を読んで、情報を得るということを習慣づけるような取組みを学校にも提案していきます。

5- (1) 学校のきまりを守っていますか。

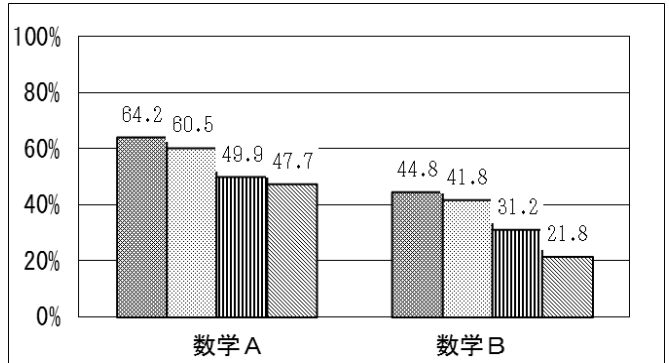
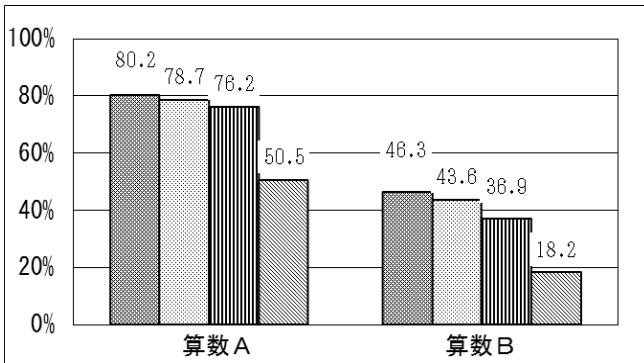
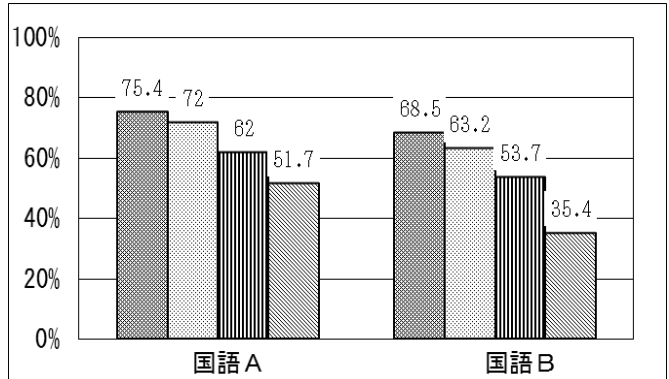
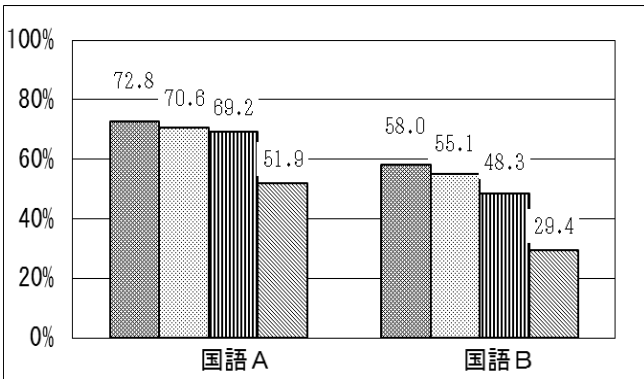
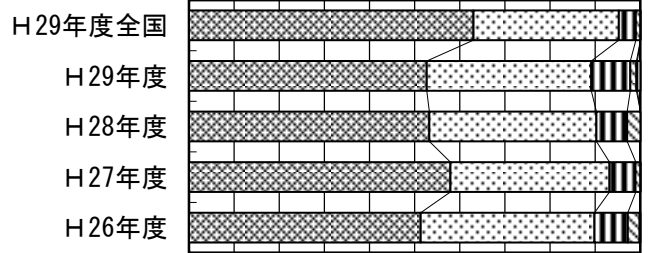
小学校

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



中学校

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答

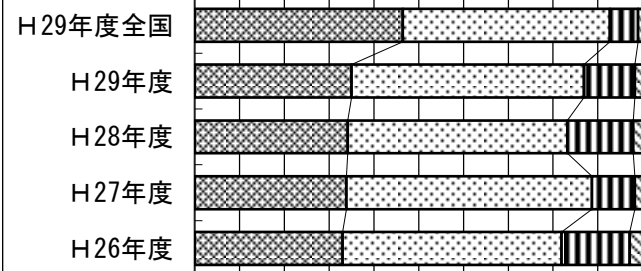


5- (1)の質問項目のグラフは、「学校のきまり(規則)を守っていますか」という問いに回答した児童生徒の経年比較をあらわしたものです。小学校・中学校ともに90%近くの児童・生徒が、肯定的に回答していることがわかります。そして、その下の相関関係のグラフを見ますと肯定的な回答をした子どもたちの正答率が高くなっています。きまりを守ろうとする「規範意識」は授業規律につながります。「静かに授業をうけよう。」「集中して先生の話进行を聞こう。」という気持ちが学級全体にあれば、先生の話がよく分かり、集中して考えることができるようになります。では、「規範意識」を育てるには、どうすればいいのでしょうか。小学校では来年度から、中学校では平成31年度から、今までの道徳が「特別の教科 道徳」となります。「特別の教科 道徳」では、道徳的な観念を「教える」のではなく、「考え、議論する」道徳として、授業が行われます。「規則を守りましょう」ではなく「なぜ、規則が必要なのか」「規則を守らなければどうなるのか」など、子どもたちと一緒に考え、「規則を守ることの大切さ」を理解する授業へと転換します。ご家庭でも子どもたちと一緒に「規範意識」について、家族で語り合ってみてはいかがでしょうか。

6- (1) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

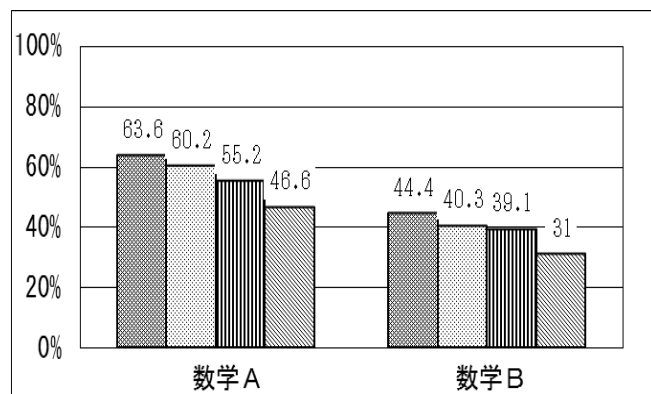
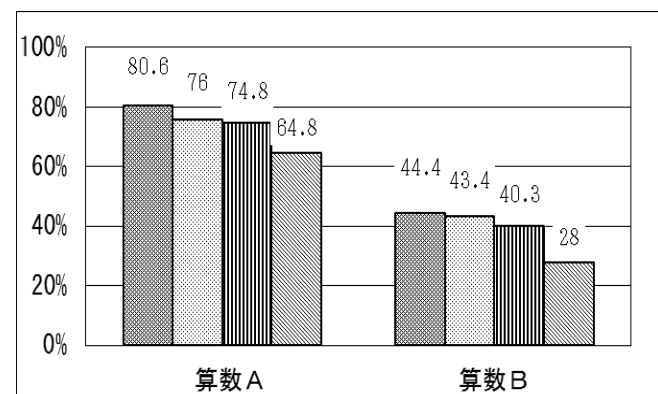
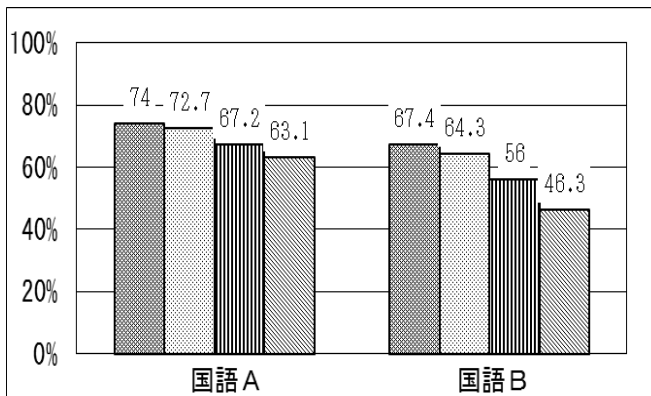
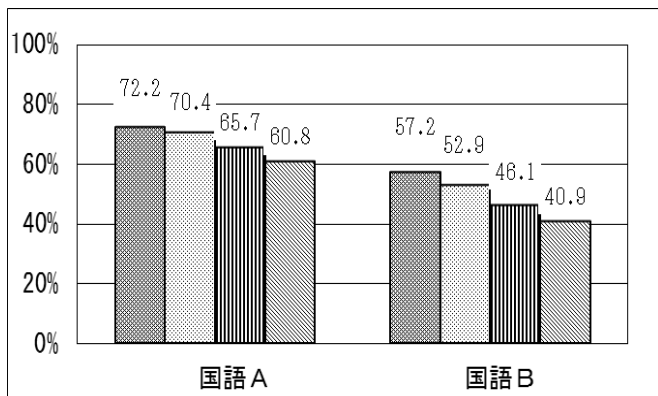
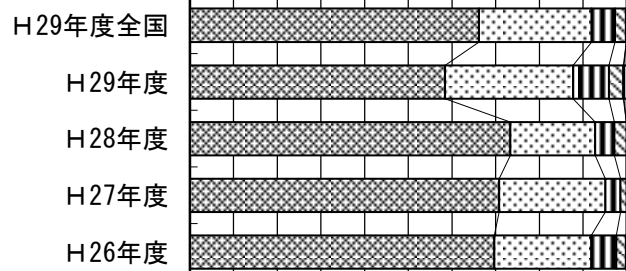
小学校

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



中学校

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答

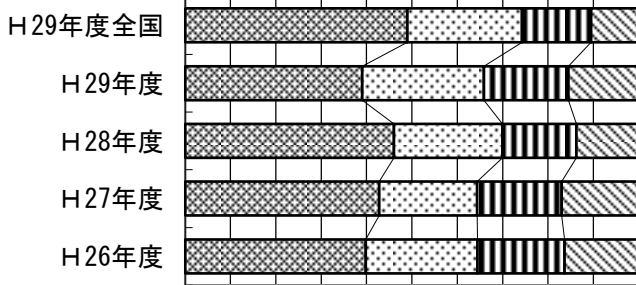


6- (1)のグラフは、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いに回答した児童生徒の経年比較をあらわしたものです。小学校・中学校ともに90%近くの児童・生徒が、肯定的に回答していることがわかります。そして、下の相関関係のグラフを見ますと肯定的な回答をした子どもたちの正答率が高くなっています。このことから「人の役に立つ人間になりたい」という気持ちと学力には関係があるように考えられます。「人の役に立つ人間になりたい」という気持ちのことを「自己有用感」といいます。「自己有用感」とは、自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということをも自分自身で認識することです。「自己有用感」は自分に自信を高め、安易に問題行動に走ることを抑止したり、危険なものに近づくことを抑制したりする働きをもちます。学校現場でも、この「自己有用感」を持たせられるような声かけ、取組みがされています。ご家庭でも「自己有用感」をしっかりと持てるような声かけをしていただいていることがうかがわれます。今後も、学校・家庭・地域が協力して、子どもたちの「自己有用感」を高めていく取組みを続けていきたいと思ひます。

7- (1) 質問項目：読書は好きですか。

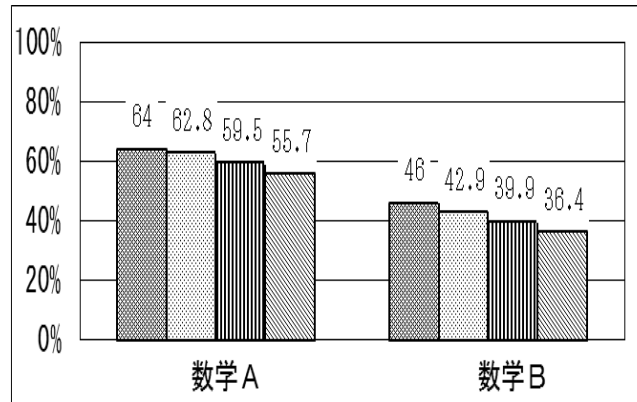
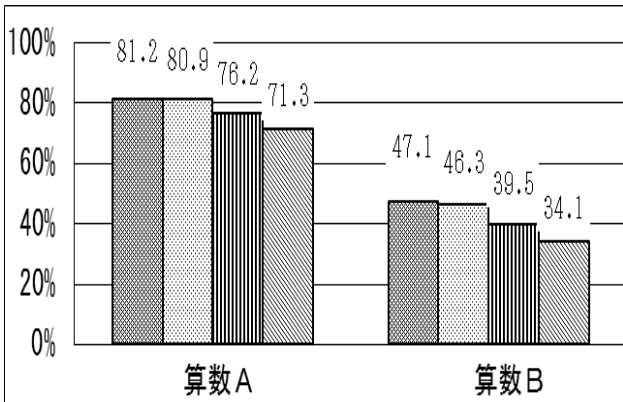
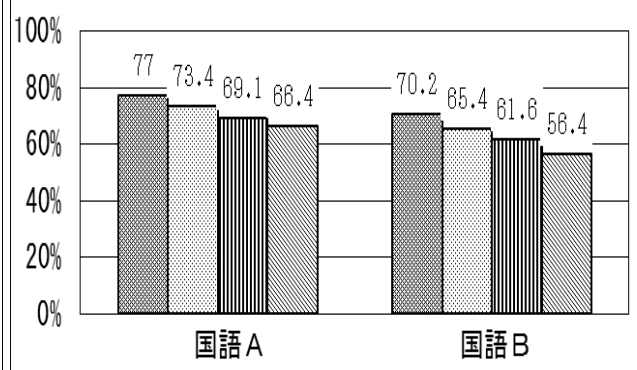
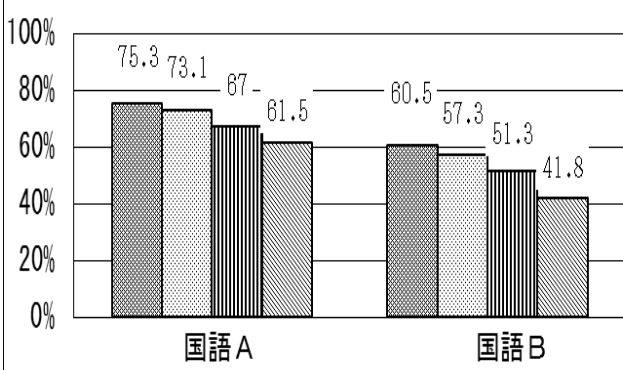
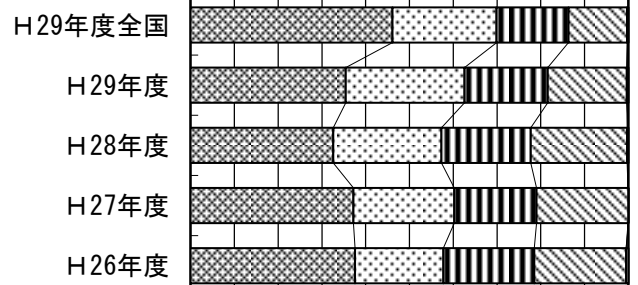
小学校

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



中学校

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答

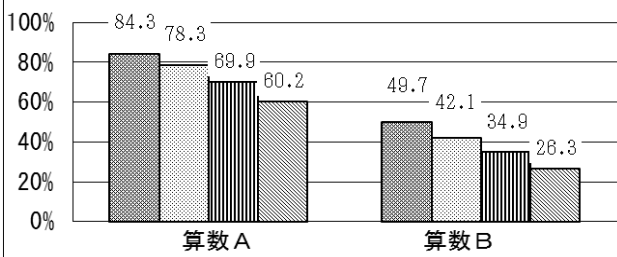
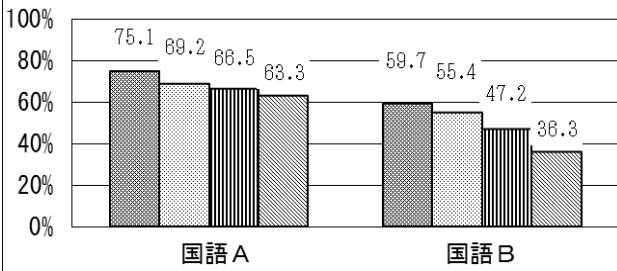
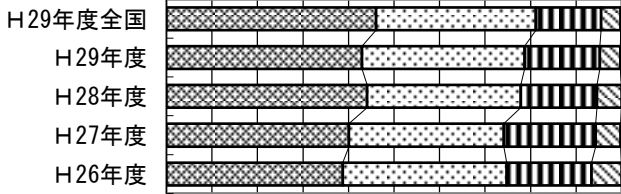


7- (1)のグラフは、「読書は好きですか」という問いに回答した児童生徒の経年比較をあらわしたものです。小学校・中学校ともに60%以上の児童・生徒が、肯定的に回答していることがわかります。そして、相関関係のグラフを見ますと肯定的な回答をした子どもたちの正答率が高くなっています。このことから「読書が好き」という気持ちと学力には関係があるように考えられます。しかし、全国の結果と比べると、小学校では8.5ポイント、中学校では7.4ポイントも下回っています。貝塚市では、3年前より、各学校に学校司書を配置し、読書活動の活性化に努めています。また、市民図書館でも「読書アルバム」を配付して、読んだ本を記録したり、シールを貼ったりして、子どもたちの読書活動が活発になるような取組みも実施されています。ご家族で図書館へ出かけ、読んだ本について紹介し合うような休日の過ごし方はどうでしょうか。

8-(1) 算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。

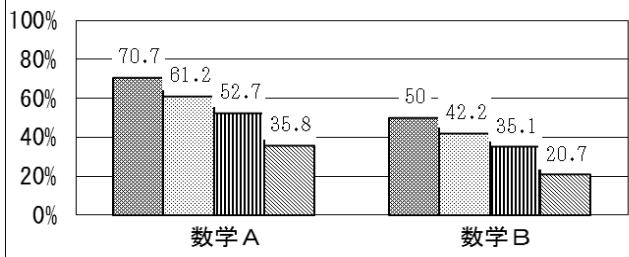
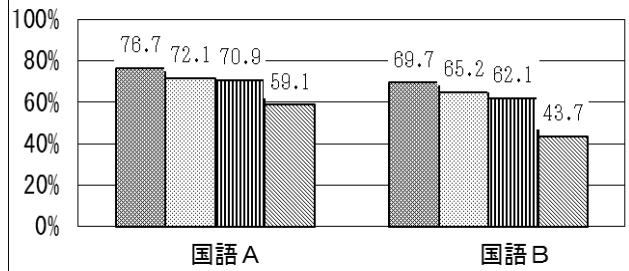
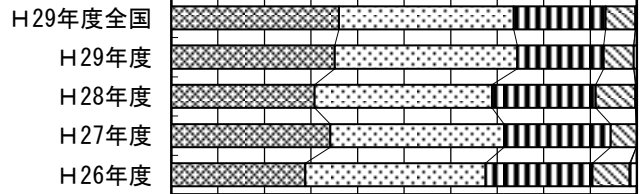
小学校

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- 5. その他
- 6. 無回答



中学校

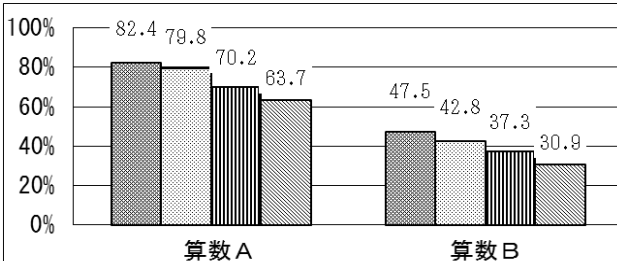
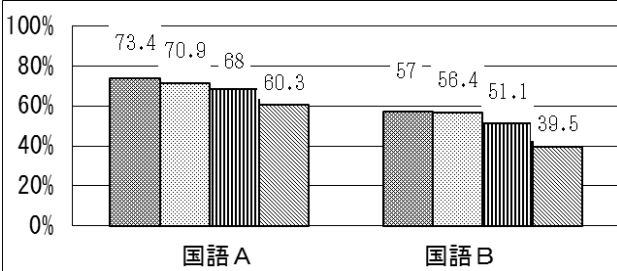
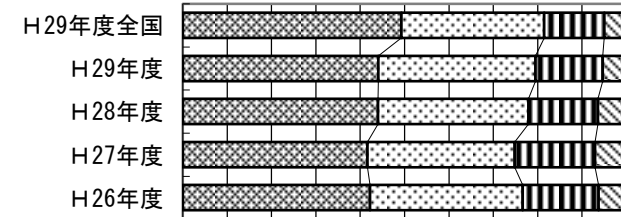
- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- 5. その他
- 6. 無回答



8-(2) 算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。

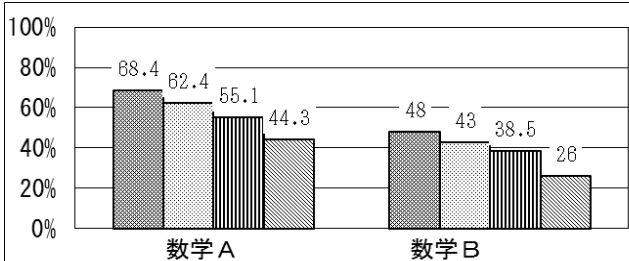
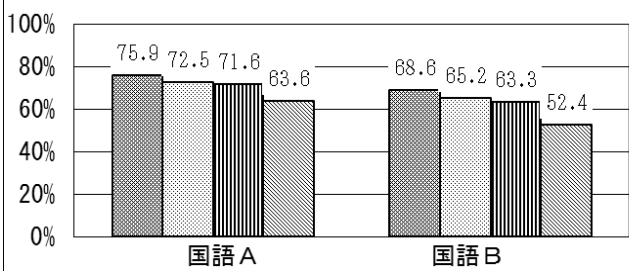
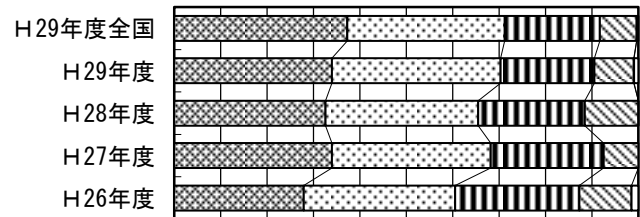
小学校

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- 5. その他
- 6. 無回答



中学校

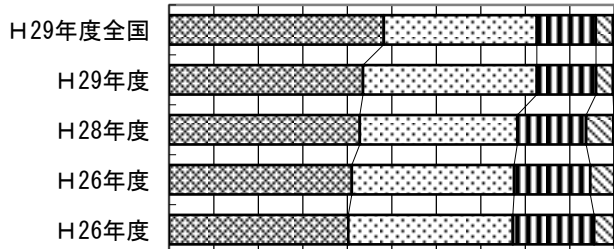
- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- 5. その他
- 6. 無回答



8－(3) 算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。

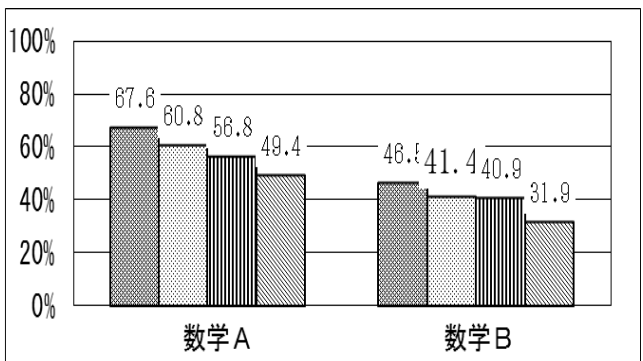
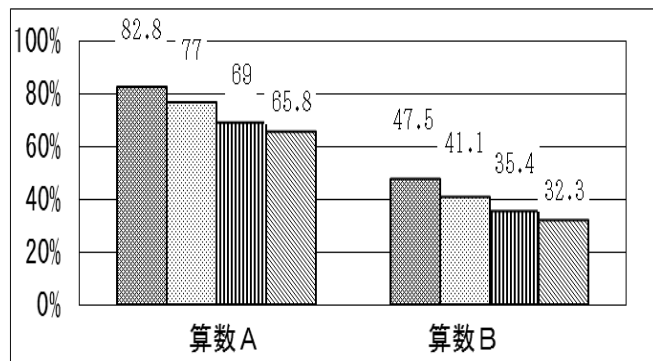
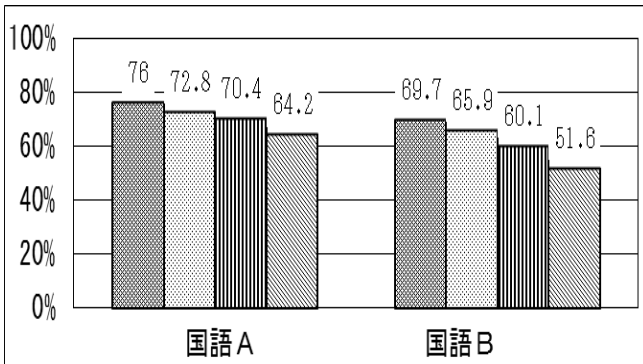
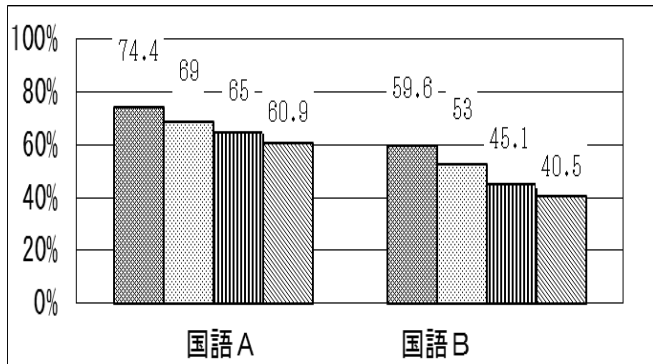
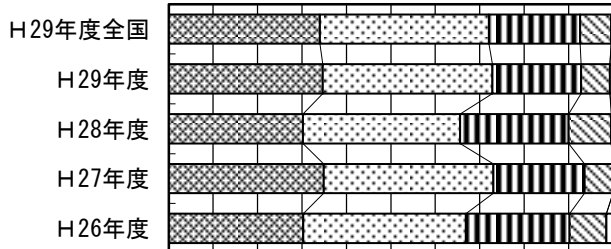
小学校

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



中学校

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



8－(1)の質問項目のグラフは、「算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。」という問いに回答した児童生徒の経年比較をあらわしたものです。小学校では80%近くの児童が、肯定的に回答していることがわかります。中学校でも75%近くの生徒が肯定的な回答をしています。そして、その下の相関関係のグラフを見ますと肯定的な回答をした子どもたちの正答率が高くなっています。また、「算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という質問項目のグラフを見ますと、同様に、小学校では80%近くの児童が肯定的な回答をして、中学校では70%の生徒が肯定的な回答をしています。そして、それぞれの質問項目の下の相関関係のグラフを見ますと肯定的な回答をした子どもたちの正答率が高くなっています。

学校では、子どもたちの自発的な疑問から答えを導き出すための「ペア学習」「班学習」による対話を用いた指導方法を取り入れています。このような学習での友達の考えを聞いたり、自分の考えを練り直したりすることも、「諦めず」「違う解決方法」を探そうとする意欲的な学習へつながると考えられます。また、こういった、学習で得られる力は次の質問項目の「算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の回答に見られるような、理屈や根拠を納得して理解する学習へつながっていると思われます。これは、算数(数学)のような学習のみならず、子どもたちのこれからの生き方にも「諦めず」「解決方法を探し」「筋道を立てて」考えることへとつながっていくことではないかと考えます。

小学校児童質問紙より

★昨年度と比較して、

1 1ポイント以上高い肯定的回答の質問項目

- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか (+3ポイント)
- 自分には、よいところがあると思いますか (+5ポイント)
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか (+2ポイント)
- 学校に行くのは楽しいと思いますか (+2ポイント)
- 将来の夢や目標を持っていますか (+1ポイント) など

2 5ポイント以上低い肯定的回答の質問項目

- 今住んでいる地域の行事に参加していますか (-7ポイント)

中学校生徒質問紙より

★昨年度と比較して、

1 1ポイント以上高い肯定的回答の質問項目

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか (+5ポイント)
- 家で、学校の授業の復習をしていますか (+5ポイント)
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (+4ポイント)

2 5ポイント以上低い肯定的回答の質問項目

- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか (-5ポイント)
- 学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか (-8ポイント)
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか (-6ポイント)

IV 今後に向けて

全国学力・学習状況調査は、今、学校で行われている学習状況を見直すための1つのツールです。子どもたちにつけたい力をつけることができているのか、それをこの調査で検証します。

今回の分析結果を、学校・家庭・教育委員会で共有するとともに、学校は、子どもたちが学ぶ本質的な意義や強みを問い直し「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点からの授業づくりに向けて取り組んで参ります。

- 子どもたちが安心して受けられる授業改善に取り組めます。
- ご家庭での家族の会話が弾む学校生活を情報発信していきます。
- 家庭学習が充実する自学自習の方法をご提案します。
- 「特別の教科 道徳」の充実をはかります。
- 「自己有用感」を高める取組みを続けていきます。

今回、児童生徒質問紙より、昨年度と比較して「1ポイント以上高い項目」「5ポイント以上低い項目」をピックアップしました。子どもたちの生活を見取るために重要なデータとなっています。

子どもたちの意識を正しく把握し、子どもたちに「10年後、20年後を見据えた学力」をつけていくことが学校の果たすべき役割です。全国学力・学習状況調査の結果から、改善しなければならない生活習慣、学校の指導方法も見えてきます。そして、ご家庭でのご協力の結果、良い習慣であったり、学校の取組みの成果も見えてきます。

今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。